



おはなしトレイン



あつ なつ 暑い夏がやってきました！ お子さまとご一緒に、図書館で涼しいひとときをお過ごしください。

がっこう し えん たん どう し し ょ 学校支援担当司書が、0歳から5歳までのみなさんにおすすめの本を選びました。

イチ
オシ！

『のりたいな』

みやまつ ともみ/さく 福音館書店



子どもが大好きな消防車やダンプカーなど、身近な車が一台ずつ見開きいっぱい描かれています。いろんな色紙を使い、貼り絵で鮮やかに表現した絵は、まるでモザイク画のよう！ あたたかみのある風合いは、のりもの絵本の中では珍しく、普段あまりのりものに関心がないお子さまでも楽しめますよ。「どの車にのりたいな？」と会話がはずみます。

0~2歳

イチ
オシ！

『ゆかいなかえる』

ジュリエット・ケベシュ/ぶん・え いしい ももこ/やく 福音館書店



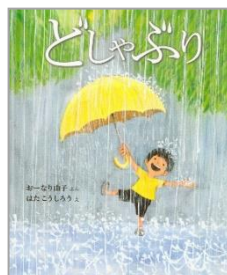
「ゼリーのようなたまご」から生まれた4匹のかえるたち。たくさんの生きものと出会って逃げたり遊んだり、楽しそうにくらしています。食物連鎖もさりげなく知ることができ、何よりかえるたちのユーモラスな表情が魅力たっぷりです。控えめな色使いですが、昭和の東京オリンピックの年から版を重ねる、いつまでも色あせないベテランです。

3~4歳

イチ
オシ！

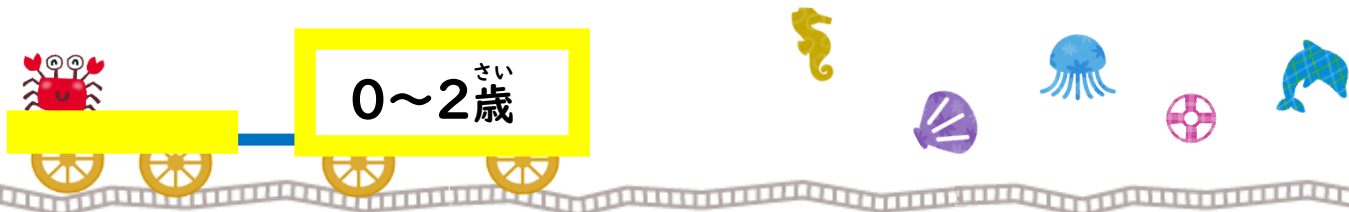
『どしゃぶり』

おーなり 由子/ぶん はた こうしろう/え 講談社



とても暑い夏の日、家から出てきた男の子が空を見上げると、そこには「まっくろのくも」。雲は、雨を連れてきました。表情を変えて降る雨の「こえ」はまるで歌を歌っているようです。裸足になってたっぷりの水たまりを蹴っ飛ばしたり、飛んで跳ねたり…。どしゃぶりの雨の中、思いっきり遊ぶ男の子の様子がいきいきと描かれています。

4~5歳



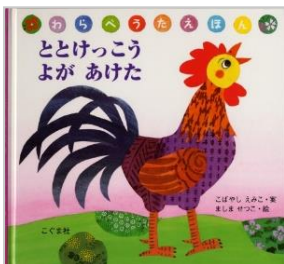
『ぬにゅ〜ぽんぽん』



ちかつ たけお/さく KADOKAWA

「ぬ?」「ぬ〜っ」オレンジ色の器から、いったい何がでてくるの? 「ぬにゅ〜」とでてきたのは、黄色い不思議ないきもの。赤ちゃんは音の響きの楽しい本が大好きです。いきものがコミカルな動きをしているところを想像しながら読んであげてください。読み手が楽しんで読むと、その楽しさが伝わります。普段口にしない言葉に、大人もつい笑ってしまいます。

『ととけっこうよがあけた』



こばやしえみこ/案 ましま せつこ/絵 こぐま社

朝です。おひさまが昇ってきました。「ととけっこう よがあけた まめでっぼう おきてきな」。にわとりがわらべうたを歌いながら、動物たちや人間のぼうやを次々と起こして歩きます。子どもが好きな繰り返し返される展開と、わらべうたを組み込んだリズムカルなことばは、読み聞かせにぴったり! 巻末には楽譜ものっています。ぜひ歌ってみてはいかがでしょう。

『いっしょにするよ』



かぜき かずひと 風木 一人/さく たかしま てつを/え KADOKAWA

5匹のことりはおさんぽするのも、水浴びするのもいつもいっしょ。とここ、ぱしゃぱしゃ、ぺったぺったと赤ちゃんの大好きな擬音語がたくさんでてきます。シンプルな絵でありながら、5匹の表情はそれぞれで、どの子も愛嬌たっぷり。みんなでいっしょにいる安心感が伝わってきます。読んでいるうちに思わず笑顔になりますよ。人気シリーズ第3弾。

『やさい』

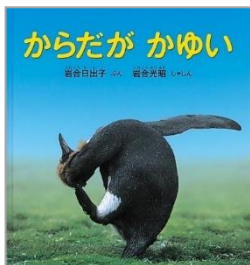


ひらやま かずこ 平山 和子/さく 福音館書店

おなじみのやさいでも、畑で育った様子はなかなか見ることがないですね。立派な葉をつけた大根は、引き抜くのが大変そう。ニョキニョキ伸びた枝からは、はち切れんばかりのトマトがのぞいています。細かく丁寧に描かれた絵は、やさいの瑞々しさを伝える力があります。やさいが苦手なお子さまも、思わず「たべたい!」と言ってしまいかもしれません!



『からだがかゆい』



いわごう ひでこ/ぶん 岩合 光昭/しゃしん 福音館書店

からだがかゆくなるのは人間だけではありません。どうぶつたちだってかゆいときはあります。けれど、どうやってからだをかくのでしょうか？からだのどこでも手でかくことのできる人間とちがって、首の長いキリンや鼻の長いゾウたちはいろんな工夫をしなくてははいけないようです。どうぶつたちの真剣な姿に、思わず笑ってしまう写真絵本です。

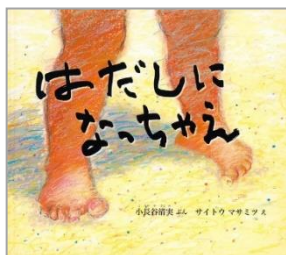
『かいちゅうでんとう』



みやこし あきこ/さく 福音館書店

カチッ。真っ暗な夜の寝室で、弟が懐中電灯をつけました。いつもはちょっと怖い暗がりも、これさえあれば大丈夫。さあ、お兄ちゃんをさそって暗闇の中を探検です！見慣れた自分の家も、なんだかとても新鮮。光を照らしたその先に、いったい何がうかびあがるのでしょうか？懐中電灯がまるで魔法の道具のように見えてくる絵本です。

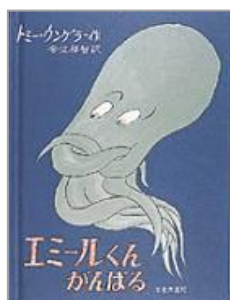
『はだしになっちゃえ』



こながや きよみ/ぶん サイトウ マサミツ/え 福音館書店

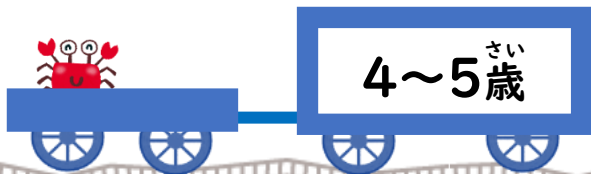
さあ、いよいよ夏休み！海に行く人もいかもしれませんね。砂浜でシャツをぬいで、はだしになって、波打ち際まで走っていく子ども。鮮やかな色彩の絵からは「あっちち」と飛び上がるほどの砂の熱さや、波に足の裏の砂をもっていられる時の「くすぐったーい」感覚が呼び起されます。強い日差しと潮の香りまで感じられそうな元気いっぱいの絵本です。

『エミールくんがんばる』



トミー・ウンゲラー/作 今江 祥智/訳 文化出版局

サメにおそわれたサモファ船長を助けた、たこのエミールくん。サモファ船長とすっかり仲良くなって一緒に地上で暮らし始めました。泳ぎだけでなく、楽器の演奏もひとまねも得意なエミールくんはあちらこちらでひっぱりだこの毎日です。ところが、今度はサモファ船長の船がわるいやつらにうばわれ、さあ大変！繰り返し読みたくなる痛快なおはなしです。



『うかいのうがい』

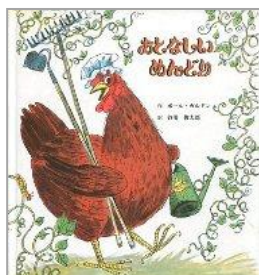
さくら せかい/作 ブロンズ新社



5羽の鶺鴒たちと鶺鴒いをはじめたハンさん。しかし鶺鴒たちは魚をとることができません。ある日うがいをやるハンさんをまねして「がらがら うーうー」と始めた鶺鴒たち。すると、その声につられて魚たちが集まってきました！さあみんな上手に魚をとれるかな？まるで水墨画のような奥行きのあるイラストも魅力的です。「うがい」の語源を元にしたお話です。

『おとなしいめんどり』

ポール・ガルドン/作 谷川 俊太郎/訳 童話館出版



むかし、ねこと犬とねずみとめんどりが、一緒にくらしていました。ある日めんどりは、小麦の種を見つけたので「だれかこのこむぎをまいてくれる？」とお願いしますが、みんなは「いやだ」といいます。ひとりて育てることにしためんどりは、できた小麦でお菓子をりましたが…。繰り返すと、胸のすく結末はまるで昔話のよう。子どもたちが大好きな展開です。

『ほらなにもかもおちてくる』

ジーン・ジオン/ぶん マーガレット・プロイ・グレアム/え まさき りこ/やく 瑞雲舎



テーブルに落ちてくる花びら。傘に落ちてくる雨…。私たちの身の回りをよく見てみましょう。上から下へ、高いところから低いところへ、そんなふう動くものがたくさんあります。自然の豊かさや人々の営みが描かれた美しい絵と詩的な文章は、読み手の想像をふくらませ、親子の会話もはずみます。『どろんこハリー』の名コンビによるデビュー作です。

『きょうりゅうのおおきさってどれくらい？』

おおしま 英太郎/さく 福音館書店



恐竜が今でも生きていたら、どのくらいの大きさでしようか？例えばティラノサウルスは信号機と同じくらいの高さです。この絵本では、身近なもの恐竜たちの大きさを比べています。恐竜と人間が共存している平和な世界を想像するとなんだかワクワクします。「せなかにけがはえている」など、学術的な研究に基づいた恐竜豆知識ものっていますよ。